

景況ウォッチ

組合活性化情報

内閣府が10月9日に公表した平成30年9月期の「景気ウォッチャー調査(全国版景気動向調査)」によると、9月の景況を示す現状判断DI(季節調整値)は、前月比0.1ポイント低下の48.6(基準値50.0=前年同月比横ばいを示す)となった。また、2,3ヵ月先の景況を予測する先行き判断DI(季節調整値)は前月比0.1ポイント低下の51.3となった。

今回の調査結果に示された景気ウォッチャーの見方は、「緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、コストの上昇、通商問題の動向等に対する懸念もある一方、災害からの復旧等への期待がみられる」とまとめている。本会の実施する9月期景況調査では、前月との比較において、全9項目中5指標が悪化の傾向となった。製造業における「売上高」の前月比は-16.7ポイントとなり、製造業で悪化の要因となった。

概況

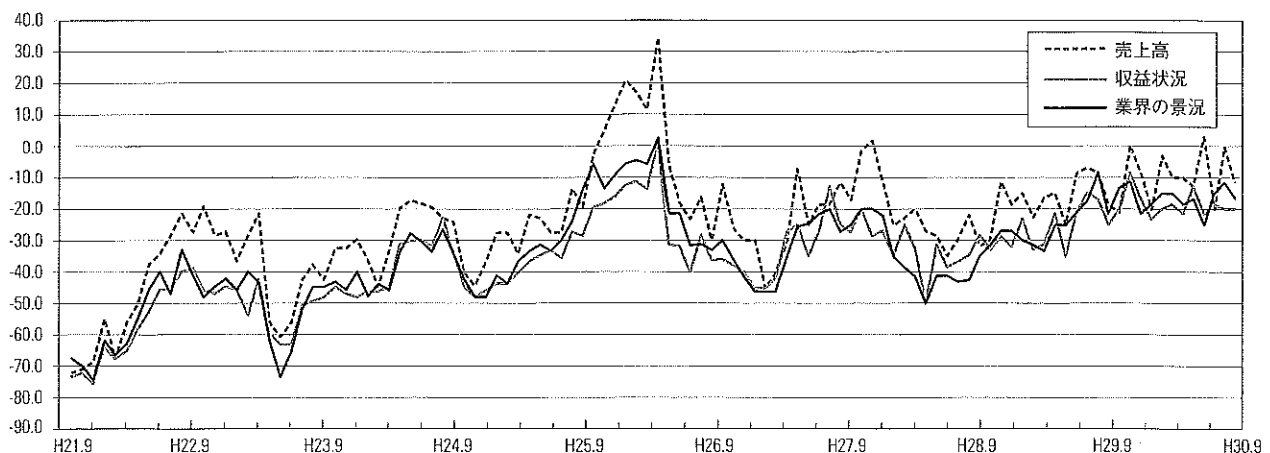
- 平成30年9月のDI値は、「販売価格」「設備操業度」を除く7指標が基準値(±0.0)を下回った。主要3指標(「売上高」「収益状況」「業界の景況」)は、前月との比較において「売上高」「業界の景況」は悪化、「収益状況」は横ばいとなった。
- 「製造業」では、前月との比較において全9指標中「売上高」「在庫数量」「販売価格」「取引条件」「収益条件」「業界の景況」の6指標が悪化する結果となった。特に「売上高」においては、前月と比較すると-16.7ポイントと、大幅な悪化となった。
- 「非製造業」では、前月との比較において全8指標中「販売価格」「収益状況」「資金繰り」の3指標が改善した。

DI値の推移 ※DI値 = [(増加・好転組合数 - 減少・悪化組合数) / 対象組合数] × 100

	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人数	業界の景況
H30.9	-11.7	2.3	6.7	-13.3	-20.0	-10.0	0.0	-8.3	-16.7
DI値	☹	☁	☀	☹	↔	☁	☁	☁	☹
H30.8	-3.3	-7.0	6.6	-11.7	-20.0	-15.0	0.0	-5.0	-11.7
H30.8→H30.9	-8.4↓	9.3↑	0.1↑	-1.6↓	0.0→	5.0↑	0.0→	-3.3↓	-5.0↓

+0.1以上…☀ ±0.0~-10.0…☁ -10.1~-20.0…↔ -20.1~-…☹
 なお「在庫数量」のみマイナス値が大きいほど好転を示している。
 ※基準値±0.0=前年同月比横ばい。

主要三指標DI値推移(過去10年間)



(平成30年9月の情報連絡員月次景況調査より)

静岡県中央会に設置されている情報連絡員(協同組合等の役職員60名に委嘱)による毎月の景況調査の概要です。

業界の声 対象17業種より抜粋

■製造業

(水産食料品製造業)

・水産加工の原材料高騰は続き、安定確保が難しい。冷蔵倉庫で使用する電気料金の高騰が経営を圧迫。先行きの不透明さから投資が出来ない状況。

(宗教用具製造業)

・8月に比べれば若干の荷動きはあったものの、全体としては未だに前年対比では悪化している。

(木材・木製品製造業)

・天災等により、原料である丸太の確保に苦慮している。

(パルプ・紙・紙加工品製造業)

・トイレットペーパー、ティッシュ製品の動きとして、プリント柄やカラー物、キャラクター物等の付加価値のある製品にも力を入れてきていて、多様な需要に応えられるようになってきている。

(セメント・同製品製造業)

・この2年間統計をとっているが、この間の最低ラインで推移している。

(金属製品製造業)

・原材料の高騰(亜鉛)で、亜鉛メッキから撤退する業者が出る。
・直近の受注好調も、先行きの不況を心配する声もある。

(生産用機械器具製造業)

・歯車関係は国内外ともに受注増加。
・工場プラントの設備関連の引き合いが多くなっている。
・最終ユーザーの生産調整で発注が減った。
・燃料の高騰が響いてきている。
・国内外向けともに好調を維持しているが、国内向け設備の受注案件において、米中貿易摩擦を要因としたキャンセルが出ており、先行き大きな懸念材料となりつつある。

(電気機械器具製造業)

・猛暑による家庭用・業務用の空調機の販売好調を受けて、減少した製品在庫の補充等のため、高水準の生産が継続している。

(輸送用機械器具製造業)

・引き続き原油価格の上昇により、材料費の値上がり懸念される。また、台風24号の停電により大きな被害が発生した。
・前月同様、四輪販売は好調で、仕事量も増えているが、人手の確保が大きな課題となっている。
・少量ではあるが受注が出てきている。

■非製造業

(セメント卸売業)

・9月の出荷は、台風等の影響により微増となった。引き続き中部横断道関連工事が底堅く、2ヶ月連続で前年同月実績を上回った。

(鮮魚小売業)

・台風等の影響により、市場に入荷する水産物が不安定で魚価が高騰。停電の影響を受けた事業者もあった。鮮魚小売業は厳しい状況が続くと予想される。

(商店街)

・2ヶ月続けて売上は昨年対比で大きく落ち込み、資金繰りが大変であった。
・9月22日より第8回「お街ゼミな〜」が始まった。専門店の魅力をお伝えでき、呉服町のファンになっていただくこの企画はお店からもお客様からも好評。
・競合店の影響で落ち込んでいた食料品が回復し、売上が戻ってきた。

(宿泊業)

・販売価格(宿泊単価)が若干上がり、売上高も多少良くなったが、仕入価格が高騰しているため、収益の上昇につながらない。インバウンド(外国人客)が団体から個人客にシフトしており、人数ベースで減少が目立った。

(総合工事業)

・人手不足・燃料代の高騰と厳しい状況である。
・首都圏を中心とした大型工事の増加により、鉄骨の鋼材・ボルトなどが品薄になり納期が3ヶ月待ちとなるなどの影響で、工程の遅延などが発生している。

(電気工事業)

・住宅需要堅調。また工場設備投資(自動車のEV化を見越した自動車産業の設備投資)の増加に伴い、電気工事の需要が増加。一方で人手不足(管理技術者、電気技術者)が顕在化しつつある。その対応策として、業界内で女性活用の推進方法を模索している。

(道路貨物運送業)

・荷動きは活発であるが、西日本豪雨以降、関西以西方面の運賃が上昇。その影響で関東方面の車両も減少しており、全国的に車両不足の状態が続いている。また燃料費の高騰も継続しており、収益を圧迫している。
・軽油価格が上昇しており、経営に響いている。今後も価格は上昇する見込み。荷動きは良いが、車が見つからず困っている。

↑「静岡県最低賃金」改定のお知らせ ↓

静岡県内の事業場で働く(パート・アルバイト等を含む)すべての労働者に適用される「静岡県最低賃金」が改定され、平成30年10月3日から「時給額858円」となりました。

なお、特定の産業には特定(産業別)最低賃金が定められています。

お問い合わせは、静岡労働局賃金室(電話054-254-6315)又はお近くの労働基準監督署まで。